

## 東山梨地区 日本語教育小学校部会【研究の経過と概要】

### (1) 研究テーマ

#### 豊かな表現力の育成 ～伝え合う力を高める指導の研究～

### (2) 研究テーマについて

「伝え合う力」は、人間が社会的な存在として自立するために欠くことのできない力である。人間関係が希薄になっている現代社会であるからこそ、伝え合う力を育てていくことは、よりよい人間関係を築いていく上で、とても大切なことである。

学習指導要領でも国語科において重視する項目の中に「互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力の育成」を上げている。

また、学校生活の中で子どもたちの実態を見ても、言葉によるコミュニケーション能力不足から、人間関係をうまく築けなかったり、トラブルを起こしたりする場面が多く見られる。学習面でも、話し方や聞き方をきちんと身につけることが全ての教科にかかわる学びの力となってくる。

このようなことから、伝え合う力を高め、豊かな表現力を子どもたちに育成していくことを研究テーマとした。

これまでの研究では「伝え合う力」を高める指導として、「話すこと・聞くこと」領域の中で、対話やインタビュー活動、調べたことを発表する活動、ローテーションミーティングを使った話し合い活動などの授業実践を通して、話す力や聞く力を高めるための手立てを学ぶことができた。

また、過去6年間の研究においては、領域を限定せずに国語科全体のなかで伝え合う力を高める指導法のあり方について実践に取り組み、話し合いにおける形態の工夫や児童の実態に即した題材設定、書いたものを活用しながら対話の実践などを行い、授業における伝え合う力を高めることができた。

そこで今年度も継続してここ数年来の研究の成果と課題をふまえ、特に領域は限定せずに研究実践を行いたい。また、子どもたちの考えを深め、表現力をはぐくむために音声言語と文字言語が有機的に関わるような学習形態・指導法・教材開発の研究を継続しつつ、教科書の改訂に合わせ、注目される「単元を貫く言語活動」についての理解を深めていきたい。また、「伝え合う力」を高めていくために必要とされる「言語能力」とはどのようなものであるかを明らかにし、児童につけさせたい言語能力を明確にした上でそれに合わせた言語活動の開発にも取り組んでいきたい。

### (3) 研究の経過と概要

日 程	研 究 内 容
5月 8日	組織づくり，研究テーマの決定
5月21日	年間計画・授業者などの決定
6月 3日	授業研究についての検討

8月 3日	学習会「豊かな表現力の育成～伝え合う力を高める指導の研究～」 ○伝え合う力を高めるための指導のあり方について 講師：中澤 勇三先生（山梨大学附属教育実践総合センター客員教授）
8月28日	授業研究 1年生に学校行事をつたえよう 対象：3年生 授業者：橋本 耀太
9月30日	実践報告 各自が研究テーマに沿った実践を持ち寄り検討

#### （４）今次地区教研で論じられた問題と今後の課題

- 1年生に伝えるという目的の下、相手意識・目的意識を持って子どもたちが主体的に取り組んでいた。今後も日常生活の中で継続して意識付けしていく必要がある。
- 対象を1年生としたことで、子どもたちの意欲喚起ができていた。子どもたちの意欲を高めるための環境条件の設定はとても大切である。
- 発表内容を考えるためにウェビングマップに取り組ませたことで、子どもたちの中で行事がどのようなものなのか思い出せていた。しかし、ウェビングマップを広げ過ぎたことで、自分の伝えたいことがまとまり切らない子もいたので、描き終わったところでじっくりと考える時間を設定する必要がある。
- 発表をしている間に子ども達が1年生の実態に合わせて発表のしかたを工夫していた。
- △発表原稿を推敲することはとても難しく、推敲の視点を具体的に子どもたちに提示すべきであった。
- △発表原稿の話し合いをする際のグループ分けで工夫が必要であった。
- △発表原稿を作る時に、ある程度の型は必要である。ただし、型に頼り過ぎても統一的な文章ばかりになってしまうので、型を提示する時は注意していく必要がある。

#### （５）報告書作成参加者

雨宮 弘志 (奥野田小)	網野 勝朗 (菱山小)
岡村 太郎 (日下部小)	岡 京子 (日下部小)
望月 清美 (日下部小)	橋本 耀太 (日下部小)
前田 文 (塩山南小)	渡邊 満智子 (塩山南小)
中村 悦子 (塩山南小)	村田 奈緒美 (塩山南小)
雨宮 加代子 (塩山南小)	後藤 美樹 (塩山南小)
武井 由美 (山梨小)	松岡 めぐみ (山梨小)
阿部 ますみ (山梨小)	植松 文香 (玉宮小)
岡村 理恵 (後屋敷小)	

## 第3学年 国語科学習指導案

授業者 山梨市立日下部小学校

橋本 耀太

### 前書き

東山梨地区の今次の研究テーマが「豊かな表現力の育成～伝え合う力を高める指導の研究」である。テーマを具現化するために、“話す・聞く”領域で自主編成による授業を行った。発表の対象を1年生にすることで、子どもたちの意欲を高めること、1年生という相手意識をしっかりと持たせて話す力・聞く力を伸ばすことを考えた。そのため、本単元は①1年生に伝わりやすい発表原稿の構成、②グループワークによる発表原稿の推敲、③伝わりやすい発表の仕方の工夫、④発表会、⑤振り返りという流れをとった。この単元を通して、子どもたちに自分の言いたい事を相手に伝えることの難しさを実感させつつも、日常生活においても相手意識をもって、伝えることの内容や方法を工夫できるようにしてほしいと考えている。

### 1 単元名

「1年生に学校行事をつたえよう」

### 2 本単元の構想

・何ができるようになるか(身につけさせたい能力)

相手意識をしっかりともち、自分の伝えたいことの内容を吟味・整理しながら、意欲的に発表(スピーチ)できる力

・何を学ぶのか(取り扱う内容)

自分より年齢が下の1年生に対し、表現の仕方や語彙の選択、スピーチの構成、非言語的アプローチ等を工夫して、自分の伝えたいことを有効的に相手に伝える手だてを学ぶと同時に、相手によって自分の言い方や伝え方を変えることの必要性に気付く。

・どのように学ぶのか(身につけるための方法)

相手意識を持ったスピーチをするために子どもたちといくつかの視点を作り、それに基づいてペアやグループでスピーチの内容を話し合う中で吟味・整理し、発表する。

1年生に、自分たちのスピーチを評価してもらおう場を設定し、学習の成果を確認する。

### 3 単元の指導目標

#### 【話す・聞く】

○学校生活の中から話題を決め、1年生が聞きたいと思うよう内容をまとめている。(1)ア

◎理由や事例を挙げながら筋道を立てて、丁寧な言葉を用いたり、1年生が分かる適切な言葉を遣ったりして話すことができる。(1)イ

◎内容のまとまりや話の構成を意識し、言葉の強弱や抑揚、視線、間の取り方、非言語的アプローチ(ジェスチャー・実演等)などを工夫して話すことができる。(1)ウ

#### 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解する。(1)イ(オ)

## 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す能力	言語についての知識・理解・技能
① 1年生に伝えたい学校行事について考えようとしている。 ② どのような内容を伝えたら1年生が興味をもってくれるか考えようとしている。 ③ 積極的に話し合いをしながら自分の伝えたいことを高めていこうとしている。	① 学校生活の中から話題を一つ決めて、1年生に伝わりやすい内容をまとめている。(1)ア ② 選んだ理由などを分かりやすい順序で構成したり、丁寧な言葉や1年生が分かる適切な言葉を選んで遣ったりして話している。(1)イ ③ 言葉の強弱や抑揚、話す時の視線、間の取り方などを工夫して話している。(1)ウ	① 1年生が分かりやすい・理解しやすい言葉を使っている。(1)イ(オ) ② 説明をする時に役に立つ言葉(指示語など)を理解している。(1)イ(オ)

## 5 単元を貫く言語活動について

本単元の最終ゴールとして「1年生に向けての学校行事の発表会」を設定した。そのゴールにむけて、単元の中でスピーチの内容を構成し、その内容を友だちと話し合う中で吟味・整理するような活動を仕組んでいく。「どのような内容が伝わりやすいのか」「どのような伝え方なら伝わりやすいのか」などを考え、自分のスピーチを高めることができるようにしていきたい。また、常に単元の目標を意識させること、1年生という対象を意識させることで、子どもたちの意欲的・主体的な取り組みを期待する。

## 6 単元について

学習指導書において、本単元は「話す・聞く」領域の“オ”(※上の図参照)が重点指導項目となっている。しかし、各学年の系統性(P2)や他教科との関連性、子どもたちの実態を考えると、本単元の重点指導項目は“オ”ではないと考える。そのため、本単元の重点指導項目を“オ”ではなく、“イ・ウ”に変更して、授業を実践していくこととする。“イ・ウ”が適切であると考え理由を以下に述べる。

2年生までの学習内容でも“イ・ウ”に関して指導する単元はあったが、子どもたちは友だちに伝えるという「目的意識」はしっかりと持つことができたが、「相手意識」を踏まえた話し方まではできていなかった。「話す・聞く」という行為には、必ずそこに“相手”が存在するものである。相手に言いたいことを伝える、相手が話しているのを聞くという行為を通して、コミュニケーションを深めていくのであり、人間関係を築く基盤となる。

そのため、本単元では、子どもたちに“目的意識”と“相手意識”をもって話をする・話を聞くことのきっかけを与えて、伝えることの基礎を築いていきたいと考える。相手に伝えて理解してもらうためには、どのような伝え方がいいのか、どのような内容を話せば分かるのか、どのような伝え方が相応しいのかなどを、①一人一人が考えること、②友だちとグループ・ペア学習をすること、③発表を相互評価していくことの3本柱を立てて、相手に伝える内容を練っていくようにする。発表の対象を「小学校1年生」にすることで、普段とは異なる環境・相手に応じて、どのような発表がよいのか真剣に考え取

り組んでいくことが考えられる（児童の実態を参照）。

一人一人が1年生に何を伝えるか考えることで、最初に自分なりの考えをまとめることができる。そして、同じようなことを伝える友だちと考えを共有することで、新たな考えに触れたり、意見交換をしたりすることで、自分の考えがより深まっていくと考えられる。その後、自分の伝えることを友だちのアドバイスを参考にしながら推敲していくことで、自分の伝えたいことがより高度なものになっていくであろう。そして、発表練習をしていき、プレ発表会を開くことで、より多くの人と評価・議論していくことで、内容以外の伝え方の部分が洗練されていく。最後に、1年生に発表会を実施することで、子どもたちの“目的意識”“相手意識”のゴールとする。実際に発表会をした後に、反省会を取り入れることで、良い点・課題点を明確にでき、その後の生活に活かすことができると考えられる。

教師の働きかけとしては、「主発問の工夫」「必要に応じた声掛け」「教材準備」「文型・話型の提示」が挙げられる。子どもたちの話す・聞く力を伸ばしていくためには、ある程度の基礎部分を「型」として教えておく必要があるので、発表原稿の書き方であったり、発表の内容に関してであったり、発表の仕方であったりを実態に応じて提示していく。しかし、「型」に子どもたちをはめすぎるのではなく、教えた「型」を基にしつつ、話し合いや発表会を通して自分なりの相手・目的を意識した発表の内容・方法に発展させていけるようにしたい。“幼稚園・保育園と学校の行事の違い”や“1年生が初めて知って「へー！」「えー！」となること”、“どのような話し方をされたら聞きたいと思うのか”など聞き手の立場なども考えさせていくことで、「型」が変化・発展していくことを狙いたい。発表の仕方も声の強弱・間の取り方・丁寧な言葉遣いが主となるが、それだけでなく視覚に訴える情報（Ex.実演・紙芝居…）など非言語的アプローチも取り入れて、相手がしっかりと聞きたいと思える発表を仕上げていくようにする。もちろん実演などが主目的ではないので、指導には十分に気をつける必要がある。

本時では、一人ひとりが考えて作り上げた発表原稿を基に、グループ学習・話し合いをさせていく。発表原稿の課題が似ている友だち同士でグループを編成し、グループ内で話し合いをすることで、自分の発表原稿に違和感を覚え、自分の原稿に足りなかった部分を明確化し、自分の原稿を修正していくところまで高めていく。そうすることで、自分の原稿の変化を実感できるようにすると同時に、相手意識をもつきっかけとしたい。

## （２） 学級の実態・「話す・聞く」の指導に関して

男子18名、女子16名（男女各1名特別支援学級在籍）の計34名の学級である。授業中は、発言をする子が多く、意欲的・主体的に参画できている。3クラスから2クラスへのクラス替えがあったため、話すこと・聞くことの面でも少しずつ差が見える。相手意識をもって話をするができなかったり、最後まで話を聞くことができなかったりする子が多い。しかし、低学年の頃から各クラスで発表の時の話型などを丁寧に指導していた背景もあり、個々の発表の仕方はある程度定着している。相手に伝える場面で上手く伝えられず、トラブルになったり、相手が何を伝えようとしているのか理解できなかったりする場面が多く見受けられる。以下に「話す」ことに関する日々の指導を載せておく。

教科・領域 生活面	実践したこと・していること	○成果・●課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よい聞き手になろう」という単元においてスピーチの学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞く時に意識すべきことを共有できた。</li> <li>●相手に伝える側(話し手)は、相手意識をもって話すことができていない。原稿を見たまま、原稿を読み切ることが目的となってしまっている。</li> </ul>
総合的な 学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生き物を調べよう」というテーマの下、調べたことを発表した。</li> <li>・伝えることを暗記し、聞き手の方を見て発表をすることを最低限の目標とした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほとんどの子が自分の調べたことを暗記して、聞き手に伝えることができた。</li> <li>●相手の方を見て、暗記したことを発表するだけで、聞き手を惹きこむような話し方ができていなかった(間を取る、強弱をつけるなどの工夫がない)。</li> </ul>
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会において話し合う機会を多く設けた(学級力について、児童総会についてなど)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの子どもが意見をよく考え、意見を述べることができています。</li> <li>○「理由は～」などの基本的な話型はほとんど定着している。</li> <li>●意見を述べることで満足してしまっていて、みんなに伝えるという意識はほとんどなかった。</li> </ul>
他教科 (算・理など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で仮説を立てたり、予想を立てたりする時間を確保するとともに、ペア学習やグループ学習を導入することもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で考える、グループ・ペアで学習する習慣が身についてきた。</li> <li>○自分の考えを発表したり、他者の考えに触れたりすることで、新たな発見をすることができた。</li> <li>●グループ・ペアによって話し合い活動の内容などに差がある。</li> <li>●</li> </ul>
朝の会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチの実施。4・5月までは、3文程度のスピーチであったが、国語で「よい聞き手になろう」を学習してからは、スピーチ原稿を書いてスピーチするようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「自分の好きな本紹介」「今までで一番心に残ったこと」を自分たちでテーマにしたので、それぞれが相手に伝えようという意識で取り組んでいた。</li> <li>○発表原稿はあったことで、今まで3文程度だったものが少し内容のある文章になった。</li> <li>●スピーチの本番は、原稿を見て発表するに終始してしまった。</li> <li>●内容の指導をしていなかったため、それぞれ差が出てしまった。</li> </ul>

他学年との交流の機会は、縦割り活動ぐらいしかなく、あまり保障されていない。ただ、2年生の時の1年生に向けて音読発表会を行った際には、1年生に喜んでほしいという理由で、とても頑張る姿が印象的であった。身振り手振りをつけて発表をする子や強弱、間の取り方など工夫をしている子が多く見受けられた。また、2年生の時には生活科のお祭りでも交流の機会があった。どのようなことをした

らみんなが喜んでくれるのか、楽しんでくれるのかを考え、創意工夫に長けたお祭りをしていた。このようなことから考えると、自分よりも下の学年に何かをする時には、お兄さん・お姉さん意識が強まり、より一層頑張る子どもが多いのではないかと考える。

このような学級の実態から考えてみても、本単元の目標は、学習指導要領における指導項目“オ”よりも“イ・ウ”の方が適切であると考えられる。相手意識を醸成することで、話す力だけでなく、聞く力も合わせて伸ばしていくつもりである。単元を通して、常に“目的意識”“相手意識”を確認していくことで、子どもたちが道に迷わないようにする必要があるので、教材の準備等を通して教師の働きかけも工夫していく。

## 7 単元の指導と評価計画（全15時間）

単元を貫く言語活動	時	○学習活動	・指導上の留意点	◆おもな評価規準
1年生に学校行事を伝えよう	<b>第1次 伝えたいことをまとめる（4時間） →個々・一人一人の学習</b>			
	1	○本単元の学習の流れを確認して、単元の見通しをもつ。 ○一人一人が1年生に伝える学校行事を考えて決める。	・子どもたちとともに、1年生に学校行事を伝えるために必要なことを考えて、単元を通した見通しをもつようにする。 [以降、毎時導入において、単元の流れを確認する。] ・1年生に伝えたい学校行事を「運動会」「マラソン大会」「秋の遠足」「縦割り大集会」「なわとび大会」の中から選択させ、ウェビングマップを描かせる。	◆本単元の流れや発表会の目的・相手について理解している。【話・聞】【関】 ◆自分の関心のある1年生に紹介したい学校行事を決めている。【話・聞】[ワークシート] ◆行事について思い出している。[ワークシート]
	2	○どのようなことを伝えたら1年生が「へー！」「すごい！」「やってみたい！」と思うのか話し合う。	・どのような内容を書いたら1年生にとって分かりやすいものになるのか、学級全体で共通認識を形成しておく。 ・第5時に向けて、文章内容を向上させるための視点づくりをする。	◆1年生が驚いたり、理解したりする内容を考えている。【関】[発表]
	3	○決めた学校行事に関して選んだ理由などをまとめて、発表原稿を作る。 ○1年生が聞いてやってみたいと思う内容を書く。	・前時に出た観点を基に、実際にスピーチをするような原稿を書く。 ・最初から文章で書けない子は、第1時に作ったウェビングマップと文章向上の視点を基に、文章を作らせるようにする。	◆紹介したい学校行事についての発表原稿を仕上げている。【話・聞】[ワークシート] ◆学校行事を選んだ理由を書けている。【話・聞】[ワークシート]

1 年 生 の 学 校 行 事 を 伝 え よ う	4	○発表原稿を基に、発表の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の仕方を自分なりに工夫させる。</li> <li>・発表練習をさせる中で、他に伝えた方がいい内容が思いついたら付け足してもよいとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆発表の仕方を工夫して練習している。【話・聞】[発表練習]</li> <li>◆丁寧な言葉遣いで話している。</li> </ul> <p>【話・聞】[発表練習]</p>
	<b>第2次 伝えたいことを深める（3時間） →ペア・グループにおける学習</b>			
	5 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループの中で、学校行事に関して一人ひとりが発表をする。</li> <li>○グループの中で、友だちの発表のどこを直したらもっと1年生に伝わりやすくなるのか考え話し合う。</li> <li>○話し合いを通して、自分の発表原稿を見直し、推敲する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事ごとに発表交流会をする。</li> <li>・発表を聞いた後に、1年生に伝わりやすい発表だったかどうか、内容で直すべきところはどこか・よかったところはどこか考え、付箋にメモをする。 [各グループ4～5人程度]</li> <li>・話し合うことは、行事の内容のみに限定し、発表の仕方については、第三次にて扱うこととする。</li> <li>・話し合いが終わった後に、友だちからの助言・アドバイスを基に、より1年生に伝わりやすい内容にするために、原稿の直しをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆丁寧な言葉遣いや強弱などに気をつけて発表している。【話・聞】[発表]</li> <li>◆積極的に助言・アドバイスをしている。【話・聞】[発言]</li> <li>◆1年生に分かりやすく伝えるために、自分の発表原稿を推敲している。【話・聞】[ワークシート]</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○別の学校行事グループの人とペア・グループになり、推敲した発表原稿を基に発表をする。</li> <li>○発表を聞いた後に、よりよくするために必要なことを話し合う。</li> <li>○自分の原稿を見直し、推敲する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時とは異なり、自分の紹介したい学校行事以外の人とペア・グループを作らせて、発表交流会をする。</li> <li>・発表を聞いて、1年生に伝わりやすい発表だったか、疑問に思ったことなどを付箋にメモして交換する。</li> <li>・意見交換が終わった後に、再び自分の原稿を見直して、1年生に伝わりやすい内容にするために、推敲し原稿を直させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ペアの人の目を見たり、丁寧な言葉を使ったりして発表している。【話・聞】[発表]</li> <li>◆より発表を分かりやすく・伝わりやすいものにして話し合っている。【関】[話し合い]</li> <li>◆積極的に助言・アドバイスをしている。【話・聞】[発言]</li> <li>◆自分の発表原稿を推敲している。</li> </ul> <p>【話・聞】[ワークシート]</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○同じ学校行事のグループの人と、他にどんな情報があれば分かりやすくなるのか考え共有する。</li> <li>○自分の原稿に必要なと思ったことを書き足してい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の異種学校行事の意見交換を経た上で、どのような意見交換があったのか同じ学校行事のグループの友だちと共有させる。</li> <li>・最後に、もう一度1年生に分かりやすく伝えるために必要なことを確認して</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆グループの中で、さらによい発表原稿にするための策を話し合っている。【関】[ワークシート]</li> <li>◆積極的に助言・アドバイスをしている。【話・聞】[発言]</li> </ul>	



1年生に学校行事を伝えよう		く。	足りないところを補うようにする。	◆自分の発表原稿を推敲している。 【話・聞】[ワークシート]
	<b>第3次 発表に向けて準備をする(8時間) →グループ・全体学習【実践編】</b>			
	8	○相手に伝わりやすい発表をするために必要なことを考え発表する。	・学級全体で、発表をする時に必要なこと(間の取り方, 声の大きさなど)を共有する。 ・教師が工夫した時としなかった時の実演をすることで, 変化に気が付かせて必要性を実感させる。	◆1年生が分かりやすい・理解しやすい話し方を積極的に考えている。【話・聞】【関】
	9 ～ 11	○異種学校行事でグループを作り, 発表の仕方を考え練習する。 ○声の大きさや強弱, 言葉遣い, 間の取り方などを確認する。 ○丁寧な言葉遣い・分かりやすい言葉遣いができているか確認する。	・様々な学校行事で発表グループを作り, グループ毎に発表の工夫を考えさせる (前時に学習したことを基に)。 ・どのタイミングでどの発表をしたらよいか, 文章をただ読むだけでよいのかをグループの中でよく考えさせる。 ・i-Padを活用して, 自分たちの発表を動画で見て確認できるようにする。	◆相手意識をもって積極的に発表練習に取り組んでいる。【関】 ◆話す時の視線, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などを工夫している。【話・聞】[発表] ◆丁寧な言葉で分かりやすく発表している。【話・聞】[発表] ◆積極的に助言・アドバイスをしている。【話・聞】[発言]
	12	○自分の学級内で, プレ発表会をする。 ○他の学校行事を紹介しているグループに, アドバイス・助言をする。 ○聞いている人から意見をもらった上で, 発表の仕方を再考する。	・本番を想定して緊張感をもって発表会をさせるようにする。 ・発表を聞いた側は, 1年生が聞いて分かりやすい発表であったか, よかったところや改善点などを助言するようにさせる。 ・挙がった意見を基に, 細かい所の調整をするなどして, 1年生に伝わりやすい発表を考えなおさせる。	
	13	○再考した発表形式で練習をする。 ○グループ内で, よりよくするために練習をしながら話し合いをする。	・前時に引き続き, 1年生にとって分かりやすい・理解しやすい発表を詰めて最終調整をする。	
	14	○1年生に向けて発表をする。【発表会本番】	・1年生の教室に行き, グループ毎に発表会を見せていく。	
	15	○発表会の反省をする。 ○単元を通して, 反省・	・発表会の動画を見せて, グループ毎に反省会をする。	◆自分たちの発表のよいところ・課題点を挙げ, これからの日常

	感想をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を通した個人の反省をさせる。</li> <li>・これからの日常生活で話す時に気をつけたいことも考えさせる。</li> </ul>	生活でどう活かしていけるか考えている。[ワークシート]
--	----------	---	-----------------------------

## 8 本時の授業

- (1) 日時 平成27年8月28日(金) 第5校時 2:00~2:45
- (2) 場所 日下部小学校 3年2組教室
- (3) 目標 自分の一番伝えたいことを明らかにし、文章構成につながりがあるか確認し、1年生に向けてより分かりやすい内容を考えることができる。
- (4) 評価規準
- (◆丁寧な言葉遣いや強弱などに気をつけて発表している。 【話・聞】)
  - ◆積極的に助言・アドバイスをしている。 【話・聞】
  - ◆自分の発表原稿を推敲している。 【話・聞】
- (5) 展開 (第5時/13)

段階	学習活動・児童の反応	指導上の留意点(◆)	評価の観点と方法(◎)
導入 5分	1. 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆“相手意識”“目的意識”を再確認させることで、本時の学習に対するモチベーションを高める。</li> <li>◆本時の流れを説明する。</li> <li>◆本時の流れを説明する。</li> </ul>	
<b>1年生に分かりやすい内ようかどうか話し合っ考えよう!</b>			
展開 (1) 20分	表をして、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分の発表原稿を読ませて、聞き手に“自分が一番伝えたいこと”が考えさせて、発言させる。</li> <li>◆“一番伝えたい事”が伝わっていなかった時は、なぜ伝わらなかったのか考えさせて、話し合わせる。</li> <li>◆話し合いの時に、なぜ伝わらないのか分からなかった場合には、視点を与える。</li> <li>◆補助教材として、例文とヒントカードを準備しておく。</li> <li>◆話し合いの際には、グループ全員で一人の原稿を見るようにさせる。</li> <li>◆つながりを意識させることで、文章全体の構成を意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎丁寧な言葉遣いや強弱などに気をつけて発表している。 【話・聞】 [発表]</li> <li>◎積極的に助言・アドバイスをしている。 【話・聞】 [発言]</li> </ul>
展開 (2) 15分	3. 自分の原稿を書き直す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆話し合いを通してもらったメモを基にして、自分の原稿に必要なことをもう一度考え、原稿を書き直したり、書き足したりする。</li> <li>◆個人で原稿に向き合う時間とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自分の発表原稿を推敲している。 【話・聞】 [ワークシート]</li> </ul>
まとめ	4. 本時の振り返りをす	◆ゴールはここではなく、何度も推敲していくことが大	

5分	る。	切であることを伝える。 ◆次時でも、グループを作って、発表して話し合うことを伝える。	
----	----	---	--

## 9 授業後の研究討議より（成果と課題）

### （1）成果

- ウェビングマップを書かせたことは有効的であった。
- 話し合いの司会者が役割をしっかりと果たしていた。
- 子どもたちが一年生に伝えようという気持ちをしっかりともっていた。
- 相手意識・目的意識をもって授業に取り組んでいた。

### （2）課題

- 原稿の内容の修正は、消さずに赤ペンや青ペンで書いたり、横に書き直したりするように指導しておくべきであった。
- 本時の学習で、めあてをしっかりと提示して、全体の共通認識の下、授業をすべきであった。
- グループ活動の中で、友だちの意見を鵜呑みにして、そのまま原稿を修正してしまっている子が数名いたので、話し合いをした後に個人で修正するように展開をしてもよかった。
- グループの子どもたちの原稿を人数分印刷しておくともよかった。
- 発表原稿を修正するとしても、どこをどのように修正していくべきか分からないので、具体的に修正箇所を教える必要がある。
- グループ分けは、同じ課題をもつ子どもたち同士にするのではなく、違う課題をもつ子ども達同士にした方が効果的であったかもしれない。
- 「伝える」ことはかなり難しいため、この授業を通して他の分野でも取り組んでいく必要がある。

## 2. その後の授業について

本時の学習以降、子どもたちの中でしばらく原稿の推敲を話し合わせるようにした。文章に少しずつ手直しが入り、1年生にとって分かりやすい内容になってきた。第3次に入ったところで、伝え方の工夫の勉強をした。声の大きさ、抑揚、間の取り方、表情など様々な点を挙げ、個々人で気をつけていくべきポイントを考えさせた。その後は、グループごとに発表の練習を行い、i-Padを活用して自分たちの発表の様子を視覚的に捉えられるようにした。そのi-Padを用いて自分たちの発表の良いところ・改善点などを話し合わせて練習を積み重ねてきた。発表会当日は、1年生が床に座っていたこともあり、事前に練習していた形とは異なって、自然と視線を合わせるように座って話をしたり、クイズ等の非言語的アプローチもうまく活用したりしながら、子どもたちにしっかりと聞いてもらうための工夫がなされていた。単元の最後に振り返りをさせると、「1年生の反応があつてとてもうれしかった。」「1年生に伝える内容を考えるのが難しく大変だった。」「大変だったけど上手く伝えられてよかった。」などが挙がった。相手に伝えることの難しさを実感したが、それ以上に伝えられたことの喜び・うれしさを実感できたように思える。

